



7月号

平成29年6月30日発行

荇田小だより

横浜市都筑区荇田南町6-9-4番地 [Tel 911-0149]

アドレス [http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



荇田っ子でんでん物語

校長 澤田 有子

7月1日の創立44周年記念日を前に、プロジェクターで写真を見せながら子どもたちに『荇田っ子でんでん物語』のお話をしました。荇田小が大切にしてきたことをもう一度子どもたちに伝え、未来に続く道をつくっていくために...

むかし 昔の話だよ... というには、そんな昔でもない今から42年前、第2代校長志村茂先生の頃一小黒地区の徳江通洋さんが、2000㎡もの田んぼを貸してくださり、荇田小の米づくりが始まったんだよ。1年生は特によくお聞き、「荇田っ子でんでん」というのはね、昨年まで米づくりをしてきた田んぼのことなんだ。学校の隣にね、でっかいでっかい田んぼがあったんだよ。

なんで米づくりが始まったのって。それはね、荇田のまちの宝物である子どもたちを、より心豊かにのびやかにたくましく育てるために、学校と地域が何か一緒にできることはないものかって話し合ったんだって。そしてね、みんなで米づくりをしようじゃないか「米づくりは 人づくり」につながるんだということになったらしいよ。昭和51年から41年間、毎年毎年子どもたちと先生たち、お父さんお母さんたち、地域協力者の方々力が力を合わせて米づくりをしてきたんだ。荇田小は、荇田農業専門学校とも呼ばれてきたんだよ。秋にはね、収穫したお米を使ってみんなで餅つきをして、みんなでアッハッハーと笑いながらお腹いっぱいきな粉餅やあんこ餅、のり醤油餅を食べたんだよ。つきたてのお餅は、柔らかくて本当においしいんだ。毎年6年生の卒業を祝って全校に配られたお赤飯も、荇田米のお赤飯だったんだよ。

ところで、一粒のお米を得るためには 多くの作業と大変な苦労があるんだよね。お米リーダーを経験してきた6年生は、実感としてわかっていると思うけどね。田起こしに畦切り、水が漏れないようにするための畦塗、土を細かく砕いて水を入れてならす作業の代かき、田植え、草取りに雀たちを追い払うための防鳥テープ張り、そして、稲刈り。これだけで終わりじゃないんだよ。稲を干すための稲架がけ、脱穀に籾摺り、精米...。いやはや一粒のお米を得るには、本当に多くの作業と苦労があるんだね。荇田っ子でんでん物語というのは、苦労しながらも協力し合うことでお互いを育てていく「人づくり」の物語だったのかもしれないね。

それからね、年明け1月には荇田っ子でんでんで、みんなが健やかに育ち、今年のお米もたくさん取れますようにと願いながら、どんど焼きをしたんだよ。大きな大きな火にあたると 体も心もほっかほっかになったんだよ。

今年から荇田っ子でんでんの場所が変わり、こんなにちっちゃくなっちゃったけど、忘れないでね41年間積み重ねてきたこの『荇田っ子でんでん物語』を。そして、伝えていってね この物語を。

これからの「荇田っ子でんでん」は、ちっちゃな外田んぼと、2年かけて学校内に造っていくこれまたちっちゃな内田んぼになるのだけれど、新しい『荇田っ子でんでん物語』をつくっていこうね。

そうそう 内田んぼには、41年間お米を作ってきた荇田っ子でんでんの土を入れることになったんだよ。大変な作業だけど、みんな 手伝ってね。

これからも荇田小学校の子どもたちのことを、どうぞよろしく願いいたします。

